

 WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2008.7

No. 291

日本野鳥の会 埼玉県支部

S H I R A K O B A T O



雨の日は国会図書館で

浅見 徹(さいたま市)

『しらこぼと』を国立国会図書館(以下、国会図書館)へ納入する準備が進行中です。時を同じくして、日本経済新聞(夕刊)2008/5/12に国会図書館のウェブサイトを紹介する記事が載りました。なんと、無料で江戸時代に描かれた動植物の絵などが見られるのです。それも、かなり高画質のjpg形式のファイルです。いや～、びっくり! インターネットによる情報公開は、ここまで進んでいたのですね。あまりの感動に、皆さんにご紹介したくて投稿した次第です。以下に、行き方と私が試してみた範囲でのサイト紹介をさせていただきます。

● 入り口

国会図書館のホームページです。

URL : <http://www.ndl.go.jp/> 末尾の“go.jp”は日本政府関係機関の公式サイトということです。安心してご入場下さい。

● 小部屋

入り口の上から3行目あたりに、横1列の6つのボタンがありますね。私のお気に入り、4番目「電子図書館」と5番目「電子展示会」です。カーソルをボタンに合わせると、各小部屋の表札がぶら下がり表示されます。行きたい部屋にカーソルを合わせてワンクリックするだけで目的の部屋に入れます。

● 電子図書館

電子図書館の上から2番目、「貴重書画データベース」は宝の山です。ここをワンクリックすると検索用の画面になります。

あらかじめ、調べたい資料が決まっていれば「詳細検索」が便利ですが、初めはまず「簡単検索」がお勧めです。Yahooなどの検索と同じ感覚で、目的の資料を探してくれます。キーワードをスペースで区切って適当に入れて、「検索」ボタンを押します。

ために「鳥」と入れて検索すると、和漢書20件、錦絵160件、絵図2件がヒットしました。「和漢書」をクリックするとズラリと20件のリストが表示されます。リスト中のタイトルボタンを押すと、その資料についての詳細情報が表示されます。画面下の「サムネイル」を押せば、その資料全ページのデジタルカラー写真画像が見られるのです。

どうです、感動ものではありませんか!

「鳥」で検索したヒット資料のNo.1:『華鳥譜』に行き当たったときはビックリ仰天! この資料だけで特集記事が書けちゃいますよ(ぜひ、お願いします。編集者)。

『華鳥譜』をほんのさわりだけ紹介します。これは、文久元年(1861年)、福山藩医で国学者の森立之という人が服部雪斎(画家かな?)に描かせた鳥図鑑です(野鳥中心ですが家禽も収録)。作成の目的は、当然バードウォッチング用ではありません。食うためです。野鳥も食材(薬)の一つとして絵入りで解説した本なのです。

雪斎さんはかなりの腕前です。当時の鳥の絵が捕獲した標本を見て描いた動きの無いものが多い中、ここに描かれた鳥たちは、そのポーズ・仕草が自然な感じで、実際に生きている野鳥を観察してスケッチしたのではないかと思えます(右ページ)。

森先生の解説が、また面白い。古文の素養が無いので、完全には理解できないのですが、字面を追うだけでも色々勉強になり興味は尽きません。“江戸市中にいるカラスは皆「はしぶと」なり”とか、“酸っぱいけれど毒は無く、子供の疳疾に効く”とか。ただし、“～～”は「はしぶと」のページからの私の勝手な解釈で間違っているかも・・・)

● 電子展示会

この電子展示会は、国会図書館(ウェブでなく本当の)で開催された特別展示会の目録を元に電子化して公開されています。

現在、『描かれた動物・植物—江戸時代の博物誌』がお勧めの部屋です。この展示会は、



ウェブ上で2005年12月から完全版公開開始とのことで、既に2年以上経過しています。公開終了予定日についての記載は見当たりませんが、早めにごらんになった方が良いかも知れません。

● その他

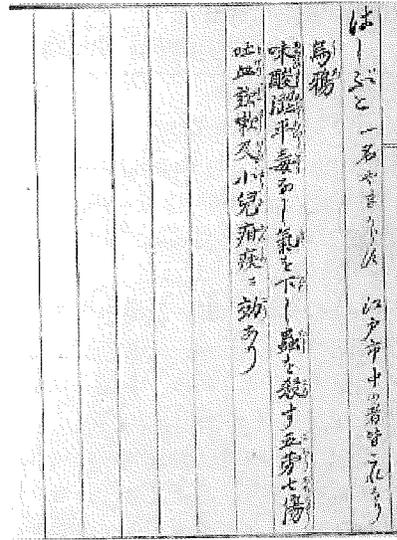
昨年の年末講演会で松田道生さんが紹介してくれた江戸の風景画の類も、電子図書館の貴重書画データベースから探せます。インターネットで江戸の町にタイムスリップし、風景画の中の野鳥観察も楽しそうです。

● おわりに

国会図書館を初めて利用したのは、今から30年以上も前。卒業研究のための文献調査で行ったのが初めてでした。田舎の大学から、日本の中心・永田町に行くことだけでも大変でしたが、目録から目的の文献を探し出し・閲覧を申し込み・内容を確認してからコピーを申し込むという作業は時間がかかり、1日で2~3件の文献を入手するのがやっとでした。それに比べて、現在のお手軽さは驚異的です。

しかし、し~んとしてひんやりとしたアカデミックな雰囲気の中で、一日中書籍に囲まれて過ごした思い出も捨てがたいものがあります。

注) 写真は、何れも国立国会図書館のホームページから、許可を得て転載したものです。



【追加情報】

「国立国会図書館 電子情報企画室」から教えていただいた事項です。

【電子図書館「貴重書画データベース」の簡単検索について】

●検索に利用できるのは、収録されている資料の ①タイトル&別書名、②著者名、③請求番号 についてです。入力した文字が、①~③のいずれかの部分に含まれていればヒットします。

例：著者名「広重」を探すつもりで「広重」と入力→「広重原図」というタイトルの資料もヒット。

●同じ項目内の語句であれば、2つ以上の語句を空白でつなぐことによって and 検索になります。別項目間での横断検索はできません。例：著者名「井原西鶴」・タイトル「好色一代男」の場合です。「井原」と「西鶴」、または「好色」と「男」などではヒットしますが、「西鶴」と「一代男」ではヒットしません。

●より詳しい検索ルールをお知りになりたい方は、浅見までご連絡いただければ、電子情報企画室からいただいた資料を転送します。

【電子展示会「描かれた動物・植物」について】現在のところ、掲載終了の予定は無いそうです。また、将来的に公開取り止めとなっても、別のところ(WARP)で移籍保管されます。WARP (URL:<http://warp.ndl.go.jp/>)

台風には勝てません

藤掛保司（川越市）

参加希望者は大変多く、抽選会で当選された方々25名は、期待に胸を膨らませて JR 浜松町駅前に集合、東京竹芝桟橋より定刻 22:30 サルビア丸で出航。船内では、消灯の 23:30 まで東京港の夜景や野鳥談義で和やかに過しました。

早朝5時に三宅島・錆ヶ浜港に入港。まずは、新鼻荘でアカコッコ、そして餌台に交代で来るオーストンヤマガラ、シジュウカラ、カワラヒワ、スズメ等を定点観察。

6:30 から、雨の中を大路池周辺探鳥へスタート。タネコマドリ、ウグイス、カラスバトは鳴き声のみ。イイジマムシクイ、ミヤケコゲラ、モスケミノサザイは声も姿も観察できました。ミノサザイの幼鳥が2ヶ所で、3羽と2羽が、ヒラヒラと飛ぶ姿や黄色い嘴の可愛い姿を全員に見せてくれました。大路池一周は倒木等が多く引き返しました。

新鼻荘に早めに戻り、オーストンヤマガラが餌を求めて手の平に乗る仕草を、交替で体験して楽しみました。

三宅島温泉「ふるさとの湯」へも行ってきましたが、露天風呂から眺める海には白波が立っており、春の嵐はおさまりそうもありませんでした。

夕食は、アシタバ料理と大きなメジナのまる揚げ等を食べながら自己紹介。キャンセル待ちで繰り上げ当選者の方の感想、明日見たい鳥の希望等々で盛り上がりました。早朝探鳥会 5:30、起床 5:00 の予定で就眠です。

ところが4:00頃、突然宿の人から起こされました。帰りの船便が14:20から6:30に変更の知らせです。低気圧に伴う海上不良のため、御蔵島・八丈島とも欠航、東京に向けて繰り上げ出航とのことです。宿出発は5:30。9部屋に伝令。「朝食の弁当は出航までに間に合えば届けます」と宿の人。「とにかく港へ！」と宿の車に乗り込みました。それでも錆ヶ浜港の待合室で、集合写真(右上)を撮ることができました。

6:10より乗船開始、弁当は間一髪間に合っ



て届けられました。新鼻荘のおかみさん一人で25名の弁当を作って、そして船まで届けてくれた事に感謝、感激でした。

帰りの船では、5～6mの高波が船にドカドカーンとぶつかるものすごさと船酔いの苦しさを体験しました。

東京・竹芝桟橋港に13:30頃に到着。予定は20:30でした。下船後は流れ解散としました。

2008三宅島、早朝の脱出劇

榎本秀和（鴻巣市）

5月の「三宅島探鳥会」、今年も実施出来ましたが、台風2号には勝てませんでした。行きはよいよい、帰りはこわいでした。

はるか南方洋上ににわか発生した台風2号は、まだ北回歸線のあたりにあるにもかかわらず、早くもその影響を関東沿岸にもたらしている。

三宅島で下船した時はまだ降ってはいなかったものの、しだいに雨風が強くなってゆく。探鳥会は続行不可能な状況に…。明日の船は大丈夫だろうか？ 欠航という言葉が脳裡をよぎる。

さて、翌朝5時すぎ、藤掛支部長の声に飛び起きる。

船は来た！ しかし、わずか1時間半後には東京へトンボ返りとのこと。それからがさあ大変。一同、大慌てで身支度を整え、港に移動。とにかくにも全員が無事に乗船する。船がすいていたのが、せめてもの救いだ。

朝食は弁当。波にもまれながら朝食を済ませ、おもむろに横になる。船酔いに苦しんだ方々には申し訳ないが、私は無事乗船した安

堵塞から、荒波もエンジン音も感じないほど深い眠りに落ちていた。

はっと気がつく、船が揺れていない。おっとり刀で甲板へ上がると、海は穏やかに静まり返っている。ほどなくクロアシアホウドリが出現、何はともあれ今年の三宅島探鳥会を締めくくってくれた。

三宅島船酔日記

匿名希望の青木正俊(さいたま市)

早朝より乗船し、おかみさんの作ってくれたお弁当を賞味、「鳥を離れると船が揺れるから早く寝た方がいいよな」の声に、「なるほど。僕もそうしよう」とさっさと横になりました。

ところが、間もなく船は上下左右に揺れだし「うー気持ち悪い」。回りを見ると皆さんは「ぐー」「いかん。ここにいるとみんなに迷惑をかけてしまう。トイレに行こう」

<この後 15 分間程の描写はできません>

「うー、まだ気持ち悪いよー。風にでも当たろう」。ふらふらしながら甲板に行くときい波。「すげー！ そうだビデオに録画しよう」。必死の思いで録画。「このまま横になっても駄目だ。ソファーに腰掛けて頭は上に向けてよう」。ソファーを見つけるとすでにぐったりと座り込んでいる先客。「ありゃ、支部長だよ。大丈夫かな」。なんて人の心配しているうちに自分も益々おかしくなり隣りに座りグテー。そのうち意識が薄らぎ眠って(気絶)しまいました。

ふと気が付くと船の揺れは収まっていました。横を見ると支部長はいません。下に降りてもガラーン。デッキに上がると、さっきとはうって変わって和らいだ波。皆さんの楽しそうな笑顔が広がっていました。

「・・・・・・・・」

「あっ、今クロアシアホウドリが飛んでたよ」

「ど、どこ？」

「もう行っちゃたよ」

「・・・・・・・・」

仕方なく和らいだ波と楽しそうに双眼鏡で鳥を追いかけている人達をビデオに録画し帰宅しました。

羽と羽根

長嶋宏之(蓮田市)

「改訂新版日本の野鳥羽根図鑑 笹川昭雄 著 世界文化社」を開いていると羽根図鑑とあっても風切羽根や尾羽根という記述がないことに気がついた。思えば文章を書くとき羽にしようか羽根にしようか迷ったことが以前にもあった。しかし今まで羽と羽根とを何となく使っていて、明確に意味が判っての使い分けをしていなかった。良い機会と思いい立ち手元の書籍で調べることにした。

前出の「羽根図鑑」や「フィールドガイド日本の野鳥」には記述がない。また「漢和辞典」には羽の字義はあるが羽と羽根の違いは載っていない。さらに「広辞苑」には、は・ね「羽根・羽・翅・羽子」とあり、使い方や例文もあるが、今一納得できない。最後にいつもの頼りにしていないマイクロソフトワードの辞書を開いた。それに曰く、

羽：(鳥に生えている)羽毛・翼<比喩的>「羽が生える、羽を伸ばす、飛行機の羽」
羽根：(鳥から)抜けたはね。(羽状の)加工品。「赤い羽根、羽根突き遊び」

なるほど納得！ 溜飲が下がった思いだ。これからは文章を書く際に、自信を持って羽と羽根とを使い分けられることだろう。

参考までに、広辞苑に載っている用語の中から幾つかを示しておこう。

はね・う・つ「羽打つ」はばたく。

はね・がき「羽掻き」鳥が嘴でその羽をしごくこと。

はね・ならわし「羽習わし」鳥が翼をひろげて飛ぶ練習をすること。

夏鳥調査はがきを同封します

2008年5月10日から7月10日までの間、埼玉県内のある一定の地域で観察した鳥種名を記入して、お送りください。県内の野鳥の様子を知るための大切な調査です。申し訳ありませんが切手をお貼りください。

今回の注目種はシラコバトです。本誌5月号2ページ下もご覧ください。なお、6月号の同封予定が7月号になりましたことお詫びいたします。



野鳥情報

越谷市谷中 ◇3月15日、県立越谷技術校裏の田んぼでタゲリ1羽確認。越谷ではあまり観察できない（小菅靖）。

蓮田市関山 ◇4月7日、自宅の塀の上でツミがヒヨドリを食べていた（細田敦史）。

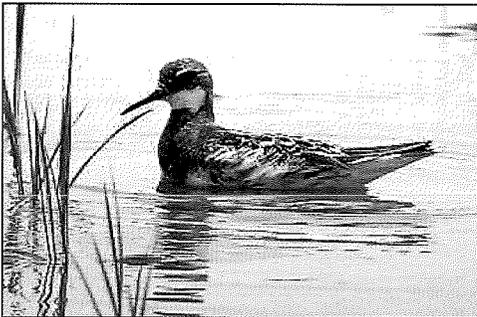
蓮田市街 ◇5月16日午後8時頃、帰宅途中でアオバズクの声聞いた（細田敦史）。

蓮田市城沼公園 ◇5月19日、カッコウの鳴き声を蓮田市街の方角から今季初めて聞いた。ムクドリが口いっぱい餌を運び、コジュケイが大きな声で鳴いていた。その他キジバト、カワセミ、コゲラ、ヒヨドリ、シジュウカラ、カワラヒワなど（長嶋宏之）。

さいたま市大宮区JR大宮駅西口 ◇4月15日午前7時35分、そごう上空でツミが「キキキ…」と鳴きながらドバトとカラスを追い、長い間SOGOの看板のSの字の上にとまる。駅前広場のケヤキの新芽が美しい（立岩恒久）。

さいたま市浦和区つきのみや神社 ◇4月22日、センダイムシクイの声（海老原美夫）。

さいたま市桜区秋ヶ瀬公園 ◇4月26日、子供の森でキビタキ♂1羽がさえずり、チラリと姿も見られた。オオルリのさえずりも聞かれ、声のする方に行き、木のてっぺんでさえずる姿を見つけた途端に飛ばれた。4月29日午前7時～9時、同所でキビタキがあちこちでさえずり、センダイムシクイ、エゾムシクイも多い。さえずり、姿とも堪能できた。オオルリ♀1羽、マヒワの群れ、アカハラのさえずり、マミジロのさえずり



アカエリヒレアシシギ(栗原豊)

(藤原寛治)。

さいたま市桜区大久保農耕地 ◇5月7日午前10時頃、Aside区でムナグロの中にアカエリヒレアシシギを1羽確認した。10年前のシギチ調査で記録されているが、比較的珍しい。観察者は私を含め2名。また、同じ田でキョウジョシギ、キアシシギ各1羽（栗原豊）。◇5月9日、B区で初めてアカアシシギを見ることができた。しかも警戒心が少なかったのでゆっくり写真も撮ることができ、久しぶりに鳥を見て感動した。すごくキレイなシギですね。田んぼのあぜの上で輝いて見えた（石塚文雄）。◇5月12日、Aside区でムナグロ約50羽、ハマシギ1羽、ツバメチドリ1羽（久保田忠資）。

さいたま市岩槻区上野 ◇5月4日午後1時30分頃、岩槻消防署の上野出張所周辺で、シラコバト1羽。確認できたのは1羽だったが、鳴き声から2～3羽いたように思われる。近くに元荒川が流れており、この川を挟んで行ったり来たりしていた。この場所周辺では、かなりの確率でシラコバトを1～2羽は確認出来ます。午後3時30分頃、この近くの元荒川でオシドリのエクリプスを確認した（菊川和男）。

さいたま市大宮区氷川神社参道 ◇5月16日午後11時50分、アオバズクの声。参道では、今季初めてです。ここでの昨年の初認は5月6日で、10日遅れとなりました。今年も無事に繁殖してくれることを祈っています（浅見徹）。

さいたま市緑区芝原見沼用水西縁 ◇5月27日午前10時、高間ヶ原橋横のプラム畑でシラコバト1羽。飛行姿を確認（落合英二）。

桶川市西小（下日出谷） ◇4月17日午前6時55分、けやきと桜の林でツミ、新緑の林の中を「キキキ…」と鳴きながら飛びまわる（立岩恒久）。

上尾市中分 ◇4月21日午前7時5分、氷川神社付近でアオサギが5羽「ゴアー、クアー」と鳴きながら上空を北方へ飛んでいった。その2分後、80羽以上のヒヨドリが新緑の森の上をすれすれに北東へ。またその

5分後にもヒヨドリが50羽以上同じ方向へ。
4月25日、朝のウォーキング中の午前7時7分、中分氷川神社の新緑の森でキビタキが「ポッピリー…」と長い間さえずっていた。渡りの途中か。その20分後、大宮ゴルフコース12番ホール入口の森でまたキビタキのさえずり。5月15日午前5時55分～6時10分、大宮ゴルフコースでいつもの朝のウォーキング途中、右の11番ホールの森で久しぶりのサンコウチョウ、長い間「ギギ…ホイホイホイ」。左12番ホールではキビタキが「ポッピリリ…」と協奏していた（立岩恒久）。

上尾市井戸木3丁目 ◇4月25日午前7時35分、農家の高いクヌギの木のとっぺんでオオルリさえずり。渡りの途中か（立岩恒久）。

上尾市上日出谷 ◇5月23日午前9時5分、カッコウが電線にとまって大きな声で「カッコウ…」と5分くらいさえずった。今年初認（立岩恒久）。

熊谷市妻沼 ◇4月22日午前7時20分、群馬県太田市とを結ぶ国道407号線刃水橋の上手、利根川の上空にコアジサシ、水面にオオバンそれぞれ10数羽が見られた。コアジサシは盛んにダイブを繰り返し採餌していた（寺山聖二）。

熊谷市（旧大里町）津田新田 ◇6月1日、民家のTVアンテナに止まってシラコバト1羽が鳴いていた。この辺りにはいないと思っていたが、初めて見られた（森本國夫）。

滑川町武蔵丘陵森林公園 ◇5月15日、ホトトギスの鳴き声を今季初めて聞いた。コガモ♂5羽♀7羽。他のカモはいなかった。夏羽のカイツブリ2羽、アオサギ3羽、ダイサギ1羽、ゴイサギ2羽。ガビチョウが大きな声で鳴いていた。カワウ多数（長嶋宏之）。

久喜市久喜菖蒲公園とその周辺（北緯36.06東経139.65地点） ◇5月18日、コチドリ1羽。カワラバト15羽土とハシボソガラス30羽土とムクドリ多数が一枚の田んぼで採餌。シジュウカラ、ハクセキレイ、コサギ各1羽、ヒバリ、セッカ各2羽、昭和沼でカイツブリ2羽、カワウ6羽が泳いでいた



アカアシシギ(石塚文男)

(長嶋宏之)。

白岡町芝山沼 ◇5月21日、カルガモ6羽、バン1羽、ヒバリ1羽、ムクドリ、スズメ各2羽。コブハクチョウ1羽が静かに泳いでいた（長嶋宏之）。

白岡町大山の田圃（北緯36.04 東経139.61地点） ◇5月21日、カルガモ3羽、ヒバリ3羽、ツバメ2羽、セッカ2羽、オオヨシキリ3羽+がさえずっていた。ハシボソガラス24羽が田んぼで採餌（長嶋宏之）。

羽生市羽生水郷公園 ◇5月21日、アシ原でカッコウとオオヨシキリがしきりに鳴き、コガモ♂2羽♀3羽とカルガモ11羽が杭の上で休んでいた。水面にコアジサシ2羽が何度もダイビング。カワウ1羽、ゴイサギ2羽、キジ♂1羽、キジバト2羽、ヒバリ1羽、ハクセキレイ1羽、セッカ1羽、カワラヒワ1羽、スズメ2羽など（長嶋宏之）。

鴻巣市大間1丁目 ◇5月22日午後10時50分頃、寝床の中でホトトギスの初啼を聞く。間近で4声ほど（榎本秀和）。

狭山市智光山公園 ◇5月22日、エゾムシクイ1羽、コメボソムシクイ2羽、キビタキ♂1羽♀1羽（久保田忠資）。

訂正コーナー

6月号「野鳥情報」5ページの「菖蒲町北緯36.06 東経139.58地点」は「菖蒲町北緯36.06 東経139.58地点」に訂正します。

表紙の写真

スズメ目ミソサザイ科ミソサザイ属ミソサザイ 小さな身体で大きな声を谷間に響き渡らせていました。

新井 巖（深谷市）



行事案内



オオヨシキリ(久保田忠資)

群馬県板倉町・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：7月6日(日)

集合：午前8時25分、東武日光線板倉東洋大前駅。または午前8時40分、思い出橋駐車場。

交通：東武日光線新越谷7:20→春日部7:35→栗橋7:55→板倉東洋大前8:16着。JR宇都宮線大宮7:07→栗橋7:41着で東武日光線乗り換え。

解散：午前11時30分ごろ、谷中湖北ブロック展望塔付近。

担当：内田、橋口、玉井、田邊、中里、四分一、植平、小林(正)

見どころ：アシ原浄化ゾーンを探鳥します。オオヨシキリ、コヨシキリ、セッカ、ヨシゴイ、ササゴイ、カッコウ、コアジサシの7種と、越夏の猛禽が出れば最高。照ると夏のアシ原は暑いです。帽子と汗拭きは忘れずに。突然の雨もあります、雨具も忘れずにお出かけください。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：7月13日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9:09発、または寄居8:49発に乗車。

担当：後藤、森本、大澤、倉崎、高橋(ふ)、藤田(裕)、栗原、飛田、新井(巖)、千

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章の担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費：就学前の子無料、会員と小中学生50円、一般100円。持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も(なくても大丈夫)。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後1時ごろ。悪天候の場合は中止、小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

島、鶺鴒

見どころ：7月の野鳥たちは大忙し。無事に育った幼鳥を連れて飛び回ったり給餌に追われ、親鳥たちは、必死にがんばっています。オオヨシキリ、セッカ、ヒバリも観察しながら歩きましょう。大麻生も照ると暑いぞ！飲物などの暑さ対策をお忘れなく。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：7月13日(日)

集合：午前9時45分、森林公園南口前。

交通：東武東上線森林公園駅下車、森林公園南口行き9:25発バスで終点下車。

費用：入園料400円(子供80円)が参加費とは別に必要です。

担当：佐久間、岡安、内藤、藤掛、大坂、喜多、青山、藤澤、山田(義)、高橋(優)、中村(豊)

見どころ：梅雨末期で明ければ暑い夏。この時期ならではの草花や国蝶オオムラサキを見ながら、数少ない鳥たちを探して山田大沼まで木陰を歩きます。数少ないと言っても、昨年はキビタキやイカルもいましたよ。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：7月19日(土)午後3時～4時ころ
会場：支部事務局108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：7月20日（日）

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、倉林、渡辺、若林、小菅、赤堀、新部、青木、増田、宇野澤、須崎、舟木

見どころ：見沼田んぼは子育てが一段落して少し静かになりました。梅雨明けの太陽が照りつけていますが、代用水の桜並木が木陰を作ってくれます。耳を澄ますとオオヨシキリの声が聞こえて来ます。元気を貰いにぜひどうぞ。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：7月27日（日）

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。
交通：西武新宿線本川越8:40発、または所沢8:33発に乗車

担当：長谷部、藤掛、高草木、中村(祐)、山本(真)、久保田、石光、山田(義)、山口、星

見どころ：入間川ではサギの仲間を探します。目標は5種。暑い川原を離れたら、稲荷山公園の木陰で草花や、今年巣立った若鳥たちを探しましょう。

●表紙写真などお待ちしておりますが……

支部会員の撮影した未発表の作品を、支部事務局宛郵送で、またはメールで yamabezuku@hotmail.com にお送りください。表紙の写真はその月らしさを重視したいので、前年同月に撮影したものを送りいただくと目を引きます。今年撮影したものは届くまでに1～2ヵ月の差が出ますので、野鳥情報欄のカットなどにまわることが多くなります。

珍鳥である必要は全くありません。身近な野鳥への新鮮で暖かい視点が感じられる写真をお待ちしています。野鳥以外の自然や、風

景の写真も歓迎。探鳥会などの写真は行事案内や行事報告欄に最適ですが、撮影されたくない方がいないかどうか、ご注意をお願いします。

野鳥の巣の写真、野鳥の生態に悪い影響を与えていることが明らかな写真、合成写真などはすべてお断りします。

巣には近付かないでください。枝や藪を切り払ったりしないでください。長時間追いかけてください。多人数で取り囲まないでください。通行の邪魔をしないでください。人の所有地に勝手に入り込まないでください。駐車で近隣の迷惑にならないでください。餌付けなど様々な問題もあります。どうかマナーを守った撮影をお願いします。

●野鳥情報もお待ちしています

こんな鳥見たよ！ こんな事してた！ 今年も飛んで来た！ 珍鳥情報ばかりではなく、見慣れた鳥のちょっと面白い行動、季節が感じられる情報、この場所では、この時季ではあまり見かけないかな…など、ちょっとみんなに伝えたい情報をお待ちしています。

ただし、公開することによって野鳥に影響を与えるおそれのある情報、巣に近付かなければ観察できないような情報、明らかに誤りである情報などは掲載できません。同定に慎重な観察を要する稀な鳥の場合は、写真などの客観的な裏づけ、または読んだ人が納得できるような記述も一緒にお送りください。

同じ人から多数の情報が寄せられた場合や同じ鳥についての情報が重複した場合など、取捨選択させていただく場合もあります。

郵便、FAX、またはメールで toridayori@hotmail.com にどうぞ。

●もちろん特集や会員の声の欄も

手書き原稿でも結構ですが、できればメールで yamabezuku@hotmail.com にお送りいただくと、編集作業がしやすくなります。俳句・短歌・イラスト・漫画…何でもお待ちしております。申し訳ありませんが、採否はお任せください。若干の書き直しなどをお願いすることもあります。



行事報告

1月13日(日) 長瀬町 長瀬

参加: 39名 天気: 晴

カイツブリ カワウ アオサギ カルガモ コガモ トビ イソシギ キジバト ヤマセミ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ カワガラス ジョウビタキ ツグミ ウグイス エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ イカル シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシトガラス (31種) 大麻生探鳥会と重なり、人出がどうか? それ以上に気になるのがヤマセミの事。スタートして第1ポイントの河原へ。小鳥・カモ類ともに少ない。第2ポイントの河原へ移動すると照葉樹の枝にヤマセミ確認。少し遠いものの、全員で観察。カワガラスは昨年に続き見えた。長瀬河原探鳥会はヤマセミが現れると大興奮。今日は皆さんラッキーでしたヨ! (井上幹男)

1月13日(日) 戸田市 彩湖

参加: 37名 天気: 晴

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ コサギ マガモ カルガモ オカヨシガモ ホシハジロ キンクロハジロ ホオジロガモ バン オオバン ユリカモメ セグロカモメ キジバト ヒバリ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ シジュウカラ メジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシトガラス (30種) (番外: ドバト) 朝から強い風。気温も低い。湖は高波で大変そう。早くからウインド・サーフィンが入り、水鳥たちは北と南に行ってしまった。メインのヨシガモを見られず、ワシ・タカもなしで残念だった。

(倉林宗太郎)

1月14日(月、休) 春日部市 内牧公園

参加: 48名 天気: 晴後曇

カワウ ダイサギ コサギ オオタカ チョウゲンボウ タシギ キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨド

リ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス セッカ シジュウカラ メジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ミヤマガラス ハシボソガラス ハシトガラス (29種) 毎年やって来る冬鳥が出てくれないと心配になるが、飛来数は少ないけれど、ツグミ、シロハラ、アオジ、ジョウビタキに会えてホッとした。定番のシメは例年と変わらず多かった。最後はタシギとミヤマガラスでお開き。 (石川敏男)

1月19日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 9名

新井浩、海老原教子、大坂幸男、工藤洋三、島田貴子、志村佐治、千野安以、松村禎夫、谷津弘子

1月20日(日) 北川辺町 渡良瀬遊水地

参加: 43名 天気: 晴

カイツブリ ハジロカイツブリ ミミカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ トモエガモ ヨシガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ ホオジロガモ ミコアイサ ミサゴ トビ ノスリ チュウヒ チョウゲンボウ オオバン ユリカモメ セグロカモメ キジバト カワセミ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス エナガ シジュウカラ ホオジロ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシトガラス (51種) (番外: ドバト) 下宮橋の谷田川上流右岸にカワセミの出迎え。正月早々出だし快調。谷中湖に入り、西橋ではミミカイツブリ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、遠くにミコアイサ♀の群れ、ホオジロガモ、ヒドリガモ等。中ノ島ではマガモの群れ。オナガガモは通常通り非常に少ない。西橋で浮島に下りているチュウヒを見ていると「トモエガモ!」と後方より声。24羽以上で盛り上がった。その後もウグイスやオオジュリン、ベニマシコ等の小鳥も観察。鳥合わせ前にチョウゲンボウ、ミサゴ、シメも顔を見せ、のどかなひと時だった。この日は別のバードウォッチャー達と抜きつ抜かれつ。東谷中橋前を左に折れた先であった反省すべきことについては、3月号で既報の通りです。 (内田孝男)

1月20日(日) さいたま市 三室地区

参加: 48名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヨシガモ(初) ヒドリガモ ハシビロガモ ホシハジロ クイナ オオタカ チョウゲンボウ バン オオバン タシギ ユリカモメ セグロカモメ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (46種) 年初めの探鳥会は穏やかな天候で風もないので、探鳥会初めてのコースに挑戦。岩槻街道を越えて芝川の左岸を水門まで行く。出現鳥は最多の46種。初出現はヨシガモで、三室探鳥会の総出現鳥は117種になった。参加者は元気に歩いて初めてのコースに満足した。(楠見邦博)

1月26日(土) 蓮田市 黒浜沼

参加: 56名 天気: 晴

カイツブリ カワウ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ オオタカ ノスリ チョウゲンボウ キジ オオバン イカルチドリ タシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (39種) (番外: ドバト) 沼の周囲は、はじめての野焼きで一変した(下写真)が、今冬は



そこを採餌場にする多くの鳥たちが、鳥見人を楽しませてくれている。風が強かったが、アオジ、ツグミ、モズ、ジョウビタキが出てくれた。オオジュリンが少ないのが気になる。種類は出たが、鳥影が薄かった。そこをカワセミが補って、沼、堀、蓮池などに何度も出てくれた。自然が維持され鳥たちが安心して住めるという観点でも、県の保全地として黒浜沼周辺の買い上げが内定したことは嬉しいことである。(田中幸男)

1月27日(日) 狭山市 入間川

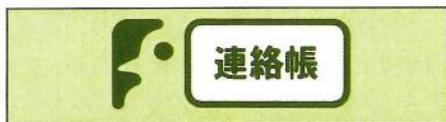
参加: 25名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ マガモ カルガモ コガモ トビ オオタカ チョウゲンボウ イカルチドリ イソシギ キジバト ヒメアマツバメ カワセミ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ツグミ キクイタダキ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) 冬の入間川の見どころのひとつは、カモの仲間。しかし、ここ数年は種類、数ともに少なく今回も3種のみ。稲荷山公園では、ルリビタキのみを皆で見ることができた。続いて、キクイタダキも現れたが小さくて動きも早いので、探すのが大変。真上を見続けていたので、首が痛くなった人もいたようだった。(長谷部謙二)

2月2日(土) 狭山市 智光山公園

参加: 44名 天気: 曇

カワウ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ キジバト カワセミ アオゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ミソサザイ ルリビタキ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス キクイタダキ エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) 藪が刈り込まれ、鳥にとって園内は“環境悪化”していたが、ルリビタキが個体数も多く目立った。カモ類が減って淋しかったものの、ジョウビタキ、カシラダカ、シメ等冬鳥が出揃い、当地の魅力を再認識した探鳥会だった。(石光 章)



●支部の将来像を考えています

まだ何年か先の、しかも大変流動的な話ですが、支部の名称に関するひとつの情報が届きました。

公益法人制度改革により、財団法人日本野鳥の会(本部)が将来公益財団法人になる際、法人格のない支部(埼玉県支部も含めて大部分の支部がそうです)を定款上の支部と定めないうまま公益認定を受けると、「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第9条」によって、支部が「日本野鳥の会〇〇支部」という名称を使用することはできなくなると解釈されているとのこと。「支部」という名称では、法人格のない団体が「公益財団法人日本野鳥の会」の一部であると誤解されるおそれがあるから、という理由です。

- 対応策としては、
- 1, 定款上の支部として「公益財団法人日本野鳥の会〇〇支部」となる。
 - 2, 支部をNPO法人化して、「NPO法人日本野鳥の会〇〇支部」となる。
 - 3, 法律で認められる範囲内で、例えば「日本野鳥の会〇〇」等の名称に変更する。
- などが考えられます。

いずれにしても、全国野鳥の会の仲間たちとともに歩く姿勢には、なんら変わりはありません。財団本部、全国の各支部とも連携をとりながら、支部役員会で協議を重ね、最善の道を選択しようと考えています。

●普及活動

- 4月21日(月) 無名会にて藤掛保司が講演。
- 5月9日(金) 本庄市立中央小学校4年生120人の総合的な学習の時間に、町田好一郎が野鳥観察を指導。

5月上旬、児玉郡市の各小学校・公民館・図書館等を町田好一郎が訪問、「ヒナをひろわないで！」ポスターでキャンペーン活動。

●会員数は

6月1日現在 2,219 人です。

活動と予定

- 5月3日(土)『しらこぼと』バックナンバー整理(普及部)。
- 5月10日(土) 6月号校正(海老原美夫・喜多峻次)。
- 5月18日(日) 役員会(司会：浅見徹、各部の報告・総会準備・法人制度改革対応・その他)。
- 5月19日(月)「支部報だけの会員」に向けて6月号を発送(倉林宗太郎)。
- 5月28日(水) 見沼たんぼ・さいたま市&市民ネットワーク総会等に出席(藤掛保司)。

●事務局の予定

- 7月5日(土) 編集部・普及部・研究部会。
- 7月12日(土) 8月号校正(午後4時から)。
- 7月19日(土) 袋づめの会(午後3時から)。
- 7月20日(日) 役員会(午後4時から)。

編集後記

5月中、サギ類の婚姻色を面白く観察していた。夏羽(繁殖形態)の中でも特にある一時期「婚姻色」になる。例えばコサギは、目先や足指が赤紫に変色など。私のHPを見たY編集部長が『しらこぼと』の特集記事にならないかと言うが、これはカラー写真でないと表現できないだろう。特集もカラー印刷にする?ときけば、E事務局長は、まさか!と笑い飛ばすに違いない。(海)

しらこぼと 2008年7月号(第291号) 定価 200円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
 (財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5436-2630 FAX 03-5436-2635
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社